

鳥島におけるアホウドリの保護対策について

環境省自然環境局野生生物課

1 . 経緯

1880～1930年代：羽毛採取・食肉の目的で、推定で合計1000万羽近くのアホウドリが乱獲される。

1949年：アホウドリの絶滅が発表される。

1951年：鳥島に10羽程度のアホウドリが生息していることが確認される。

1965年：気象庁鳥島気象観測所の保護活動により100羽程度まで回復する。

1965年：火山性地震により、気象観測所が閉鎖され、保護活動が中断される。

1981年：環境庁の生息状況調査及び繁殖地の維持・保全事業として、既存の繁殖地（燕崎）が降雨に伴い流出する火山灰の堆積により埋没するため、堆積する土砂の除去及び土留め工事を行う事業が開始される。

1993年：種の保存法に基づく国内希少野生動植物種に指定。保護増殖事業計画の策定。アホウドリの繁殖地の維持・保全事業及び新繁殖地形成事業として、デコイ（鳥の模型）・音声発生装置を用いた新繁殖地（初寝崎）への繁殖個体の誘導事業が開始される。推定個体数は約500羽。

1998年：レッドリストのランクについて、より絶滅のおそれが少ない絶滅危惧類に見直される。

1999年：推定個体数が1000羽を超える。

2005年：推定個体数は約1700羽。

2 . 保護対策の効果

- ・ 繁殖地の維持・保全事業により、繁殖成功率が事業開始前の1992年（平成4年）：48%であったものが、2004年（平成16年）：70%に向上。
- ・ 新繁殖地形成事業により、1995年（平成7年）より1つがい又は2つがい新繁殖地において繁殖を行っていたが、平成16年度は初めて4つがい繁殖に成功し、4羽のヒナが巣立った。事業開始後、合計11羽のヒナが巣立っている。